学校司書教諭と学校司書との連携による学習支援活動

堺市立熊野小学校　司書教諭　花岡智子

１．はじめに

堺市では，子どもの自主的な読書活動を推進するための環境を社会全体で整備することをめざして，平成１６年に「堺市子ども読書活動推進計画ー夢をはぐくむ・堺っ子読書活動ー」を策定しました。堺市では，子どもの読書活動は，言葉を学び，感性を磨き，表現力を高め，創造力を豊かなものにし，人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであると考え，また，子どもの自主的な読書を通じて得られる，自ら学ぶ楽しさや知る喜びの経験は，子どもが自ら考え，行動し，主体的に社会の形成に参画していくために必要な知識や教養を身に付ける重要な契機となると考えたからです。そして，平成２３年度には「未来をつくる堺教育プラン（平成２３年度～平成２７年度），さらに平成２８年度には「第２期未来をつくる堺教育プラン（平成２８年度～平成３２年度）を策定し，家庭，地域，市立図書館，学校などがそれぞれ連携を深めながら，子どもがいつでもどこでも本に親しめる環境づくりに取り組むとともに，読書の大切さを啓発広報してきました。さらに平成３１年２月には，すべての子どもの発達段階に応じた体系的な取り組みを一層推進するため，「堺市子ども読書活動推進計画　つながる・ひろがる　堺っ子読書活動」として改訂し，現在に至っています。

中でも学校は，子どもが読書習慣を形成していく上でかけがえのない大きな役割を担う場所であるとして，全校一斉の読書活動，学校図書館の整備，司書教諭を中心とした図書館の活用促進などに堺市全体で取り組んできました。平成１９年度に開始した「学校図書館教育推進事業」においては，中学校１校とその校区内の３小学校を研究校として学校図書館職員が常時配置となりました。学校図書館の整備とその活用に取り組み，順次モデル校を増やしていきました。そして，図書館を活用した公開授業や，他校への巡回訪問，研修などを行い，全市での共有を図りました。また，地域の人材を活用した学校図書館サポーターも配置されました。さらに平成２９年度からは，全市立中学校（４３校）に学校司書が配置となり，昨年度令和２年度には，ようやく小学校（９２校）へ週１回の学校司書の配置が実現しました。今年度令和３年度は，学校司書の配置が各校週２日に拡充され，学校図書館の整備や読書活動の推進に一翼を担っています。

２．熊野小学校の学校図書館

本校は，堺市北部の堺区に位置し，全校児童数約３００名ほどの中規模校です。令和４年度には創立１５０年を迎えることとなり，堺市でもっとも歴史の古い小学校の一つです。平成３０年に新校舎が竣工され，学校図書館も新しくなりました。そのときに古い蔵書を廃棄したため，現在の蔵書数は８６００冊ほどであり，コンピューターによる蔵書管理を行っています。

堺市の施策にともない，本校にも昨年１１月に学校司書が配置となりました。現在，司書教諭（１年担任と兼務），学校司書，学校図書館サポーターの３名で学校図書館の整備，読書活動，授業支援などに取り組んでいます。学校司書については，昨年度は週１回の勤務でしたが，今年度は週２回，各５時間の勤務となりました。主に，学校図書館環境整備，図書の配架，図書の貸出，返却作業のサポート，読み聞かせや本の紹介などの活動を行っています。勤務時間が増えたことで，今年度は

全学年に向けて学校図書館を活用した読書活動を提案，授業支援していくことにも取り組みたいと考え，実施してきました。その１学期に行った取り組みを中心に報告させていただきます。

読書活動については，まず，司書教諭が学校司書との相談のもと立案し，研修委員会を経て職員会議で各学年に提案するという形をとって行いました。その上で，各学年の意向も聞いたうえで調整し，司書教諭と学校司書とで役割分担し，実施しました。

３．具体的な実践事例

≪１年　国語「くちばしずかんをつくろう」≫

①単元のねらい

説明文「くちばし」の発展として行いました。文章を読んで，新しいことを知るという読書体験の楽しさや「これはなんの〇〇でしょう。」と友だちにクイズを出すという活動を通して友だちと交流することの楽しさを感じさせることをねらいとして行いました。

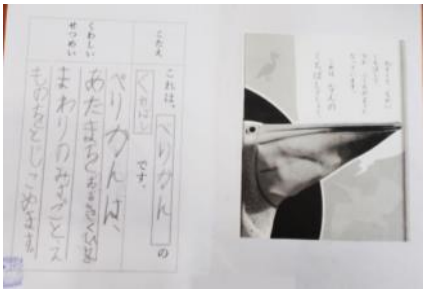
②単元の流れ　　（全２時間）

時	学習活動	役割分担
1	・写真を見て，何の生き物の一部分かを調べて書く。	・いろいろな生き物の写真やワークシートの用意（学級担任） ・並行読書用の本の選書（学校司書） ・調べ学習の支援（学校司書） ・学習指導（学級担任）
2	・友だちにクイズを出し，なんの生き物の一部分なのか理由とともに伝える。	・学習指導（学級担任）

③活動について

まだ，ひらがなの学習が終わったばかりのころであり，調べて書く活動は難しいかと考えましたが，教科書と同じ形式で書かれた図書を活用することで，スムーズに活動を行うことができました。図書の写真をタブレットで撮影し，テレビに投影することで，伝える側の意欲付けにもなり，また聞く側の支援にもなったと思います。学校図書館で様々な本を読む読書体験として，また友だちにわかったことを伝える経験の第一歩となる活動として，楽しい活動になるよう工夫しました。

【調べる活動の様子】



【ワークシート】

【できあがったずかん】

≪２年　国語「いろいろな生き物のちえを知ろう」≫

①単元のねらい

説明文「たんぽぽのちえ」の発展として行いました。身近な草花や昆虫などの生き物の知恵について書かれた本を，司書教諭がブックトークで紹介し，子どもたちの「もっと知りたい。」「もっと読んでみたい。」という意欲を読書活動につなげることをねらいとしました。

②単元の流れ　　（全２時間）

時	学習活動	役割分担
1	・ブックトークを見て，読書活動に意欲を持つ。	・ブックトーク「生きもののちえってすごい」を行う。（司書教諭） ・並行読書用の本の選書（学校司書） ・児童指導（学級担任）
2	・読書活動に取り組み，読書ノートに記録する。	・学習指導（学級担任）

③活動について

ブックトークでは，計６冊の本を紹介しました。紹介によって読書への意欲を高め，またその読書が，国語「かんさつ名人になろう」や生活科「めざせ野さい作り名人」「めざせ生きものはかせ」などにつながっていくよう，本を選んだり，紹介の仕方を工夫したりしました。低学年の子どもたちは，生き物が大好きです。ブックトークという生き物のちえにふれる機会を作ることで，楽しみながら読書をし，季節ごとに変わる生き物の変化やちえに気づかせ，生活科で育てているトマトや生き物を観察する上での意欲へとさらにつなげていくことができたと思います。

【ブックトークの様子①】

【ブックトークの様子②】

【教室前に並べられた本】

≪３年　国語　本はともだち「はじめて知ったことを知らせよう」≫

①単元のねらい

本単元は，図鑑や科学読み物を選んで読み，初めて知ったことを伝え合う中で，本には知識や情報が詰まっていることや，一人ひとり興味を持つ事柄や感じ方が違うことに気づかせ，幅広い読書活動へ広げることをねらいとしています。これまで知らなかった新たな知識に出会う喜びを味わったり，友だちが選んだ本に興味を持ったりする機会となるよう工夫し，児童の読書の世界を広げさ

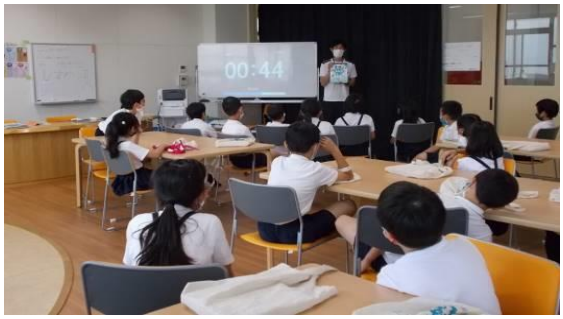
せたいと考えました。今回は，本を読んだ感想を伝え合うという言語活動を「ビブリオバトル」で行い，子どもたちの活動への興味関心をさらに高めることにしました。

②単元の流れ　　（全６時間）

時	学習活動	役割分担
1	・教師のモデルを見て，ビブリオバトルについて知り，そのやり方や活動の目標を考える。	・活動のねらいや方法（ビブリオバトル）について説明する。　（司書教諭） ・ビブリオバトルのモデルを見せる。 （司書教諭・学校司書・学級担任） ・児童指導（学級担任）
2 ～ 4	・教材文「鳥になったきょうりゅうの話」を読み，おおまかな内容を捉える。 ・自分が紹介したい本を選び，初めて知ったことを中心に紹介のしかたを考える。	・学習指導（学級担任） ・ビブリオバトルのルールを決める。 （学級担任） ・児童の選書支援（学校司書）
5 6	・ビブリオバトルをして，本とともに初めて知ったことを伝える。	・学習指導（学級担任）

③活動について

最初に，司書教諭が本単元の学習のねらいや学習によって身につく力，学習過程などについて説明しました。この活動の中で司書教諭，学校司書が行った支援は，３年生児童にとって初めて行う「ビブリオバトル」についてモデルを示すことです。担任と司書教諭，学校司書が「発見」というテーマでそれぞれが選んだ本を１分で伝え，子どもたちが最も読んでみたいと思った本に挙手をするという方法で行いました。学級担任，司書教諭，学校司書の３人がそれぞれ違ったジャンルの本を紹介することで，本の幅を広げ，またそれぞれの伝え方で紹介することによってチャンプ本に選ばれるためには伝え方を工夫する必要があることに気づかせるなど，活動に興味を持たせ，「やってみたい。」という思いを持たせることができました。



【学級担任・司書教諭・学校司書によるビブリオバトルの様子】

≪４年　国語　本はともだち「事実にもとづいて書かれた本を読もう」≫

①単元のねらい

本単元では，事実に基づいて書かれたノンフィクションを読んで，新たに知ったことを友だちに本とともに紹介するという活動を通して，読書の幅を広げることをねらいとしています。ノンフィクションを読むことの魅力は，自分がそれまで知らなかった事実を知ることができるところにあります。身の回りの事柄が知識の中心だった低学年とは異なり，４年生という発達段階は，社会で働く人や世界で起こっている出来事，目には見えない宇宙や微生物の世界など，多様な方向に興味・関心を持ち始める時期です。ノンフィクションを読んだり，友だちから紹介を聞いたりすることによって，新たな知識と出会ったり，筆者の感じ方や考え方にふれたりすることができます。また，友だちと伝え合うことで，互いの興味・関心の違いに気づいたり，互いの考えを交流しあったりすることができ，新たな読書のおもしろさに気づくきっかけになります。また，本を紹介する方法として，ポップや本の帯を制作することで，「要約する」，「文章の一部を引用する」「キャッチコピーを書く」といったこれまでに国語で学習した内容を振り返る活動につながります。どのように紹介すると友だちが興味を持ってくれるのか，相手意識を持って取り組ませることも大切です。

②単元の流れ　　（全６時間）

時	学習活動	役割分担
1	・平和の本とともにポップの紹介を聞き，作り方を知る。 ・「一つの花」のポップを作る。	・「すみれ島」の読み聞かせ（学校司書） ・「平和」をテーマにした本の選書（学校司書） ・紹介用ポップの用意（司書教諭） ・ポップの作り方の説明（学校司書） ・ポップ作りの支援（学校司書） ・児童指導（学級担任）
2 ∫ 4	・教材文「ランドセルは海をこえて」を読み，互いの考えを交流する。 ・ノンフィクションを読んでポップを作ることを知る。	・学習指導（学級担任） ・ポップ用カード準備（学級担任） ・ノンフィクションの選書（学校司書） ・公共図書館からの団体貸出の手続き（司書教諭）
5 6	・選んだ本についてポップを作り，友だちと交流し合う。	・学習指導（学級担任） ・児童の選書支援（学校司書）

③活動について

【実際にでき上がったポップ】

初めは，６月単元の「一つの花」の学習のまとめとして，ポップ作りについて学ぶことを提案しました。当初は，学校司書から「平和」をテーマにした本の紹介とポップの作り方を教えてもらい，その上で，児童が自ら選んだ本でポップ作りを行うという活動をする予定でした。ノンフィクションに限定するのではなく，並行読書用として貸し出す本の中にノンフィクションを多数まぜることによって，自然にノンフィクションに目を向けることができればよいと考えていました。しかし，学級担任から全員ノンフィクションを読むことに挑戦させたいという思いを聞き，ノンフィクションでポップを作るという活動に変更しました。ポップを作るうえでは，

題名や作者（筆者）名の書き方や見出し，キャッチコピーなどをつけて読み手を引き付ける方法など紹介の仕方の基本を押さえました。また，ノンフィクションについては，学校図書館の本だけでは冊数，種類ともに足りないと感じ，公共図書館に団体貸出を申し込みました。４年生児童が興味を持ちやすいよう，写真を多用した写真絵本や，今社会で話題になっていることがらに関連したもの，４年生で学習する天気や星座，環境問題などを扱ったものを意識して入れるようにしました。

≪５年　国語　本はともだち「作家で広げるわたしたちの読書」≫

①単元のねらい

本単元は，自己の本の選び方を振り返り，その中から作家に着目して本を選び，友だちと本を紹介し合うという活動を行います。読書の意義に気づかせたり，読書の幅を広げたりすることをねらいとして行います。５年生の子どもたちは，日常的に様々な作品を選んで，読書を楽しんでいます。その本の選び方は，好きなシリーズや表紙のイラスト，興味・関心のある内容など，各々偏りがあると思われます。作家に着目して本を読むという読み広げのしかたを提案することで，それぞれの作家の作風の違いに気づいたり，同じ作家の作品の共通点や相違点などについて友だちと共感的に話し合ったりすることができるのではないでしょうか。そのような活動を通し，あらたな選書の視点をもつことで，読書の意義を感じ，読書への興味関心を高めていきたいと考えました。

②単元の流れ　　（全６時間）

時	学習活動	役割分担
1	・これまでの読書生活を振り返り，本の選び方に関心を持つ。 ブックトークを見て，作家に着目して読み広げることに関心を持つ。	・活動のねらいや方法について説明する。（司書教諭） ・「大阪の作家さん」をテーマにブックトークを行う。（司書教諭） ・教職員の好きな作家を紹介する。（司書教諭） ・児童指導（学級担任）
2～4	・教材文「カレーライス」を読み，紹介カードの書き方を考える。	・学習指導（学級担任） ・紹介カードの作成と準備（学級担任） ・紹介カードの書き方の説明（学級担任） ・重松清とその作品の紹介（学校司書）
5 6	・選んだ作家と作品について紹介カードを書き，友だちと交流し合う。	・学習指導（学級担任） ・児童の選書支援（学校司書）

③活動について

まず，「作者に着目して本を読む」という活動に児童が興味を持つような工夫が必要だと考え，本校の教職員に，好きな作家とその作品や理由について書いてもらいました。集まったものをもとに掲示物を作成し，５年生の教室の近くに掲示しました。掲示物の前には，一緒に本も展示し，すぐに手に取って見られるようにしました。また，授業の導入にブックトークを行いました。ブックトークのテーマは，「大阪の作家さん」です。堺出身のさいとうしのぶさんの他，長谷川義文さん，

田島征三さんなどを中心に紹介し，作家を意識して本を読むという活動のねらいや身につく力，学習過程などを説明し，学習への興味を高めました。

学校図書館の本だけでは，作家に着目して複数の本を読むという活動に十分な本が集められないと考え，公共図書館へ団体貸出を申し込みました。授業の趣旨を説明し，一人の作家につき５～６冊の本の貸出をお願いしました。教科書に掲載されている作家は，公共図書館でも人気の作家であり，貸し出しの難しいものもあるということから，公共図書館の方が子どもたちに読んでほしい作家をまぜて貸出してもらいました。

授業の導入や掲示物によって，５年生児童は活動に興味を持ち，学習をスタートすることができました。計画では，同じ作家を選択した児童でグループを作り，紹介カードをもとに新聞をつくるという活動を考えていましたが，それぞれの選ぶ作家が一人ひとり異なったため紹介カードをもとに作家の魅力を伝え合うという言語活動に変更しました。自分のお気に入りの作家を選んで紹介カードを書く児童もいましたが，読んだことのない作家に挑戦する児童もおり，新しい読み広げの機会になったと考えています。今後，この活動で終わることなく，新たな教材文の学習や本の紹介時には，作家に着目した紹介のしかたを工夫するなど，活動の継続をねらっていきたいと思います。

【５年教室前　掲示】

【導入の授業，ブックトークの様子】

≪６年　国語　本はともだち「私と本」≫

①単元のねらい

本単元は，自分のこれまでの読書行為を分析することを通じて自分と本との関わりを考え，本を読むことで自分の世界が広がっていくことに気づかせ，生涯にわたって本との関わりを深めていくための礎にすることをねらいとしています。これまでの自分と本との関わり方を振り返ることによって，自分の好きなジャンルや読書の傾向を客観的に知ることができ，また友だちの読書傾向を知ることを通して，多様な本との関わりや付き合い方，読書の幅を知って，さらに今後の読書生活を豊かにしていく態度につなげたいと思います。

本を紹介するための手法の一つとしてのブックトークは，一度に複数の本を紹介できるという良さがあります。しかし，本をブックトークの形で紹介するためには，相手や目的を意識し，どのような本を取り上げるのか，また取り上げた本のどこを主に紹介するのか，選んだ本をどのような順序で紹介するのかなど，多様な視点が必要となります。また，選んだ本の特徴をとらえて紹介するためには，相手に伝わるように構成や表現を工夫することが欠かせません。そのためには，学校図

書館利用のための知識や情報モラルなどについても身に付けておく必要があり，学校図書館を活用した情報活用能力育成のための総合的な学習といえます。

②単元の流れ　　（全７時間）

時	学習活動	役割分担
1	・自分の読書生活をふりかえる。 ・教師のブックトークを見て，ブックトークで本を紹介する活動に意欲を持つ。	・活動のねらいや方法について説明する。（学校司書） ・ブックトークを行う。（学校司書） ・ブックトークのやり方について説明する。（学校司書） ・児童管理（学級担任）
2～4	・教材文「森へ」を読み，作品の魅力について交流する。 ・「森へ」とともに紹介したい本を探して，交流する。	・学習指導（学級担任） ・紹介カードの作成と準備（学級担任） ・紹介カードの書き方の説明（学級担任） ・星野道夫とその作品の紹介（学校司書）
5～7	・自分が紹介したい本を選んで，紹介の「テーマ」を決める。 ・テーマに沿って，その他の本を選びシナリオを考える。 ・ブックトークの手順を確認し練習する。 ・ブックトークで互いの本の魅力を伝えあう。	・学習指導　（学級担任） ・児童の選書支援　（学校司書）

③活動について

ブックトークという読書活動をさせることは，簡単ではありません。一人ひとりが紹介したい本から決めた「テーマ」に沿って本を選ぶこと，紹介のしかた（シナリオ）を考えること，本と本とのつなぎかたなど，一人ひとりに合わせた支援が必要になります。また，ブックトークは，児童だけでなく，学級担任にとっても未経験であることが多く，取り組みやすい活動とは言えません。

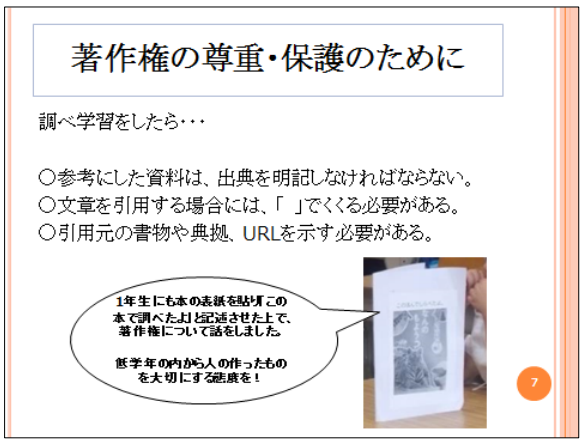
今回は計画を立てたものの，実際に行うことができたのはテーマごとに本を紹介する活動であり，本を複数紹介するブックトークにはつなげることができませんでした。配当時間を考えると本を選ぶ時間や読む時間などは，配当時間外となり，もっと余裕を見て活動を始めることが必要だったと思います。また，一人２～３冊の本を紹介するブックトークのほか，２～３人のグループで一人１冊紹介するグループブックトークなど，児童や学級の様子に合わせて，いろいろな形で取り組めることを伝えていく必要があると思いました。

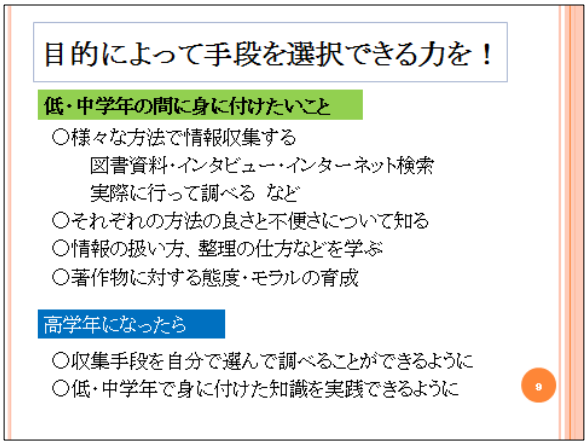
【学校司書によるブックトークの様子】

４．教職員への研修

夏期研修で，本校教職員に対し読書活動がなぜ必要なのか，どんなことができるのか，どんな力が身につくのかについて伝えました。また，情報モラルとして著作権保護の視点を忘れてはならな

いことも確認しました。学校教育の急速なＩＣＴ化の中で正しい情報活用のあり方や情報モラルの育成が見過ごされてはいけないと考えるからです。そして，正しい情報活用能力を育成することも，司書教諭の担う役割の一つではないかと思っています。





【夏期研修で使用したパワーポイント資料の一部】

５．成果と課題

①読書活動の意義

今回の学習指導要領改訂において，学校図書館は，「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を有し，「計画的にその機能の利活用を図ること」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすこと」「児童の自主的，自発的な学習活動や読書活動を充実させること」などの役割を担うと明記されています。読書活動を行うことは，今回の指導要領改訂の趣旨に合致し，学校全体で計画的に行う必要があるということです。しかし，図書を活用した学習を行うためには，そのための準備が不可欠であり，多くの時間を必要とします。その中心を担うのが，司書教諭であり学校司書であると考えられます。活動を行っていく中で，司書教諭・学校司書が行うことのできる支援は主に次の３つであると考えました。

１．読書活動を行うための選書

２．意欲を高めるための本の紹介や掲示物づくり

３．読書活動のモデルの提示

まず，選書には本に対する多様な知識が必要です。どのような本があるのか，どのような本を活用すると学習に効果的であるのか，この活動で子どもたちに読ませたい本は何かなどを考え，準備するためには多くの時間が必要です。普段から本に関わる仕事をしていなければ，本を適切に集めることはできません。また，必要な本をいつもすぐに手に取れるように普段から学校図書館に本をそろえておくことも大切です。

次に，意欲を高めるための本の紹介や掲示物づくりについて，子どもたちの本や活動に対する興味関心を高める手立てとして，とても有効であると思います。子どもたちは，本が大好きです。しかし，その読書の幅を広げるのは簡単なことではありません。子どもは本を並べて置くだけでは，手に取りません。ブックトークや読み聞かせ，掲示物で紹介することによって初めて興味を持ち，手にとり，読んでみようかなと考えます。さらに，読書活動を行うことで，子どもたちが必然的に読む機会を作ります。その機会が，本やその本の筆者との新たな出会いとなり，子どもたちに新しい考えとの出会いやいつもとちがった読書の世界をのぞくきっかけになるのではないでしょうか。

さらに，ブックトークやビブリオバトルといった読書活動を行う上では，モデルを示すことが大切です。子どもたちだけでなく学級担任にも，どのような活動をするのか，活動をすることによってどのような力が身につくのかなど具体的にイメージを持たせることが，実際の活動への意欲につながると感じました。

②今後に向けての課題

活動を通して，今後の課題として考えていかなければならないことが明確になってきました。

１．学級担任との連携

２．他教科とのカリキュラムマネジメント

３．ＩＴＣの活用

司書教諭や学校司書が「読書活動を提案し学習を支援する」と言っても，すべての授業に司書教諭や学校司書が入ることができるわけではありません。提案はできても，実際に主として授業を行うのは学級担任です。学級担任が読書活動の良さを理解し，意欲を持って取り組もうとしなければ，読書活動は成功しないでしょう。学級担任と緊密に連携を取り，どんな活動が可能で，それによってどんな力が身につくのか，どんな支援ができるのかしっかり話し合った上で行うことが大切だと感じました。

また，特に高学年は，その他の教科においても様々な活動を計画し行っています。その中で，無理なく読書活動を位置づけるためには，国語だけでなく他教科をも含めた教科等横断的な視点やカリキュラムマネジメントの充実が必要になってきます。学級担任が「やれそうだな。」「やってみたいな。」と思える活動を提案していくことが，継続につながると考えました。

堺市でも，文部科学省が打ち出した「ＧＩＧＡスクール構想」の実現に向け，令和２年１２月に児童生徒への１人１台のタブレットが整備されました。そして令和３年４月からは1人1台端末を活用した「新・堺スタイル」の授業が本格的に始まり，ＩＣＴを活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向け，効果的な授業改善に取り組んでいるところです。そういった状況の中で，タブレットを活用することが情報教育であるといった意識が定着するのではないか危機感を覚えることがあります。図書館教育は，情報活用教育の一つです。そのことを教職員に伝え，今後，図書館教育と情報教育を結びつけ，読書活動においても積極的にＩＣＴを活用することが必要だと感じています。学校図書館を使った読書活動とＩＣＴを使った活動，それぞれの良さを理解した上で，子どもたちの情報活用能力を両方の面から養っていくことが，これからの読書活動の課題であると考えます。

参考資料：「堺市子ども読書活動推進計画　つながる・ひろがる　堺っ子読書活動」
「小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　総則編」「国語編」
光村図書出版　小学校国語科教科書